

一般財団法人丸文財団
交流研究助成 候補者推薦要領
第 21 回 (2017 年度)

1. 趣 旨

日本国内の大学または公的研究所等の研究機関(以下、「当該研究機関」という)に海外から来訪し、研究に従事する外国人若手研究者及び同様の目的で日本から海外に赴く日本人若手研究者等の交流研究費や共同研究費等、または将来これら交流研究、共同研究に発展すると期待される研究活動に従事する国内外の留学生の研究費等を助成することにより、若手研究者の自立した研究を支援するものです。なお助成金の使途については研究者の所属組織の規定に則り、適正に会計処理される限り制約はありません。

2. 対象技術分野

原則として以下のエレクトロニクス関連分野を助成対象とします。

- ① 集積デバイス技術及びLSI システム
- ② 光エレクトロニクス
- ③ 先端デバイス・材料
- ④ エネルギー・環境エレクトロニクス
- ⑤ バイオ・医用エレクトロニクス

3. 助成候補者資格

上記2の対象技術分野に従事する研究者および大学院生(博士課程後期)で、以下の条件を満たす方

1) 2018年3月31日現在で35歳以下の方

(ただし、特別な理由がある場合は40歳以下でも可)

2) 助成期間中(2018年4月1日から2019年3月31日まで)に次のいずれかに該当し、本交流研究助成の必要度が高く助成により研究進展が期待できる方

(A) 当該研究機関が、交流研究および国際共同研究等で海外から受入れる外国人研究者、および将来の交流研究等が期待される外国人留学生で、以下の条件を満たす方

- ① 国際共同研究等で受入れる場合は、助成期間内に同一研究者が同一研究目的で、連続または累計で、受入期間が3ヶ月以上であり、受入元責任者の推薦を受けることが可能な方
- ② 日本国内の大学院博士課程後期に在籍し、その責任者の推薦を受けることが可能な方
(ただし、特別な理由がある場合は、大学院前期課程に在籍し博士課程後期進学予定の方も可)
- ③ 同一研究が複数年に跨る場合は、次年度も引き続き交流研究助成を申請できる。その場合は初年度の研究成果により次年度の助成を決定する。
- ④ 過去に当財団より交流研究助成を受けた研究者も資格条件を満たせば再度申請ができる。

(B) 当該研究機関が、交流研究または共同研究等の目的で、海外の他の研究機関等へ派遣する日本人研究者及び大学院生(博士課程後期)または将来の交流研究等が期待される日本人留学生で以下の条件を満たす方

- ① 共同研究等で、国外の研究機関等に派遣する場合は、助成期間内に同一研究者が同一研究目的で連続または累計で、派遣期間が3ヶ月以上であり、受入先責任者の同意があり、派遣元責任者の推薦を受けることが可能な方
- ② 海外の大学院博士課程に学位取得等の目的で留学する場合で、受入先大学院の同意があり、出身大学院の推薦を受けることが可能な方
- ③ 同一研究が複数年に跨る場合は、次年度も引き続き交流研究助成を申請できる。その場合は初年度の研究成果により次年度の助成を決定する。
- ④ 過去に当財団より交流研究助成を受けた研究者も資格条件を満たせば再度申請ができる。

《海外研究特別奨励》

助成候補者が年齢 30 歳以下で、当該派遣が研究者としての将来に特に重要であると判断できる場合は、《海外研究特別奨励》の上乗せ申請が可能です。

4. 助成内容

- 1) 助成金総額：1,600万円以内
- 2) 採択件数：約12件程度（1件につき上限150万円）
※ 海外へ派遣される日本人研究者の場合は、《海外研究特別奨励》の上乗せ助成（1件につき上限150万円）により、助成金総額は最高300万円になります。
- 3) 助成期間：原則として2018年4月1日から2019年3月31日までのうち、3ヶ月以上の受入期間または派遣期間が助成対象になります（多少の期間変更は可）

5. 推薦手続

- (1) 推薦者：
 - 1) 大学においては、学科長、主任教授等（直接の指導教官でも可）
 - 2) 公的研究機関においては、研究室長または研究部長等
- (2) 推薦件数：
推薦者1名につき、推薦数は1件
- (3) 推薦方法：
以下の書類を事務局あてに提出
 - (A) 研究者等の招へい：様式-A「研究交流助成候補者推薦書 海外からの招へい」
「研究交流助成申請書」(候補者本人記載)
 - (B) 研究者等の派遣：様式-B「研究交流助成候補者推薦書 海外への派遣」
「研究交流助成申請書」(候補者本人記載)

6. 推薦依頼時期

- 2017年7月1日（土）：受付開始
2017年10月31日（火）：締切（必着）

7. 選考方法

助成受給者は書類審査の後 12 月上旬に開催される当財団の選考委員会で選考し、理事会で決定します。

- 選考委員長：榎 裕之（豊田工業大学学長）
- 副委員長：堀越 佳治（早稲田大学名誉教授）
- 選考委員：浅田 邦博（東京大学教授）
- 選考委員：荒川 泰彦（東京大学生産技術研究所教授）
- 選考委員：小野 輝男（京都大学化学研究所教授）
- 選考委員：小山 二三夫（東京工業大学未来産業技術研究所所長）
- 選考委員：平本 俊郎（東京大学生産技術研究所教授）
- 選考委員：森 勇介（大阪大学大学院工学研究科教授）

8. 結果の通知および助成金交付等

- (1) 結果の通知：2018 年 1 月末まで(推薦者あて)
- (2) 助成金の交付：2018 年 3 月末まで
- (3) 贈呈式：2018 年 3 月

9. 成果報告

助成受給者は助成期間終了後すみやかに所定の成果報告書を当財団に提出していただきます。

10. 推薦書等の送付先および連絡先

東京都中央区日本橋大伝馬町 8 番 1 号 丸文ダイヤビル 8 階（〒103-0011）

一般財団法人丸文財団

専務理事・事務局長 小野澤 隆

電話：03-3661-1881

FAX：03-3808-2959

URL：http://www.marubun-zaidan.jp/

助 成 推 A

交流研究助成候補者推薦書
海外からの招へい(様式-A1)
第 21 回 (2017 年度)

年 月 日

一般財団法人丸文財団 御中

推 薦 者
役 職・氏 名 _____ ・ _____ 印
候補者との関係 _____
所 属 機 関 名 _____
所 在 地 〒 _____ ・ _____
TEL _____ FAX _____ E-mail _____

下記の者を貴財団の交流研究（招聘）助成候補者として、申請書を確認・添付の上推薦いたします。

ふりがな _____ ローマ字（ファミリーネームは大文字で記載） _____ 国 籍 _____
氏 名 _____（ _____ ） _____
受入機関名(学校名) _____
身 分 _____
所在地 〒 _____ ・ _____
TEL _____ FAX _____

研究題目（日本語表記）：

推薦理由（紙面不足の場合は A4 用紙 1 枚以内で別紙を添付ください。また、大学院留学生の場合は、研究助成の必要性と有効性、将来の交流研究への発展可能性について述べてください）

助 成 申 A

交流研究助成申請書（様式-A2）

第 21 回（2017 年度）

年 月 日

一般財団法人丸文財団 御中

申請者氏名 _____ 印 国籍 _____

生年月日 _____ 年 _____ 月 _____ 日（2018年3月31日現在 _____ 歳） 性別 男 女

日本での所属機関名(学校名・学科等) _____

所属機関での身分（職員等「雇用関係」のある場合は職名） _____

所在地 〒 _____ ・ _____

TEL _____ FAX _____ E-mail _____

自宅住所 〒 _____ ・ _____

TEL _____ FAX _____

出身国での所属機関名(学校名・学科等) _____

所属機関での身分（職員等「雇用関係」のある場合は職名） _____

1 学歴・職歴（学位取得の時期）

2 希望助成金額 と 使途計画

使途計画について記載してください

希望助成金額 _____ 万円 _____

3 滞在の期間・滞在費等の受領と申請の状況・支出の実体と見込み・本助成の必要性

日本での本助成対象となる 2018 年度滞在期間 _____ 年 _____ 月 ~ _____ 年 _____ 月（ _____ ヶ月）

日本で受給している給与やフェローシップ等滞在支援の有無（申請中又は予定を含む） あり なし

受給中の給与の額 _____ 万円/年（勤務先名と職名） _____

受給中のフェローシップなどからの支援額 _____ 万円/年（助成団体や制度の名前） _____

フェローシップなどへの支援申請の額 _____ 万円/年（助成団体や制度の名前） _____

支出の実体と見込み（年額）

滞在費 総額 _____ 万円（うち本助成による充当分 _____ 万円）

研究費 総額 _____ 万円（うち本助成による充当分 _____ 万円）

その他 総額 _____ 万円（うち本助成による充当分 _____ 万円）

本助成の必要性（具体的に説明してください）

4 研究の目的・特色・実績（紙面不足の場合は A4 用紙 1 枚以内で別紙を添付してください）

5 受入れ研究機関等での交流研究又は共同研究の内容（具体的に記入してください）

6 今後の研究計画骨子・期待される成果（予想される波及効果等）

7 本研究に関連する申請者本人の主要論文（最近の論文を5件ほど記入してください）

助 成 推 B

交流研究助成候補者推薦書
海外への派遣（様式-B1）
第 21 回（2017 年度）

年 月 日

一般財団法人丸文財団 御中

推 薦 者
役 職・氏 名 _____ ・ _____ 印
候補者との関係 _____
所 属 機 関 名 _____
所 在 地 〒 _____ ・ _____
TEL _____ FAX _____ E-mail _____

下記の者を貴財団の交流研究助成(派遣)候補者として、申請書を確認・添付の上推薦いたします。

《海外研究特別奨励》上乘せ申請しますか？ 申請する 申請しない (いずれかをチェックしてください)

ふりがな _____ ローマ字(ファミリーネームは大文字で記載) _____ 国 籍 _____
氏 名 _____ (_____) _____
所属機関名(学校名) _____
身 分 _____
所在地 〒 _____ ・ _____
TEL _____ FAX _____
派遣先(研究機関名) _____

研究題目（日本語表記）：

推薦理由（特に《海外研究特別奨励》上乘せ申請する場合は、候補者が研究者として能力が高く、将来有望であり、この海外派遣が重要であると判断する理由を、研究実績などを含め、なるべく具体的かつ簡潔に記入してください。また、大学院留学生の場合は、研究助成の必要性和有効性、将来の交流研究への発展可能性について述べてください。紙面不足の場合は A4 用紙 1 枚以内で別紙を添付してください）

助 成 申 B

交流研究助成申請書 (様式-B2)

第 21 回 (2017 年度)

年 月 日

一般財団法人丸文財団 御中

申請者氏名 _____ 印 国籍 _____

生年月日 _____ 年 _____ 月 _____ 日 (2018 年 3 月 31 日現在 _____ 歳) 性別 男 女

所属機関名 (学校名・学科等) _____

所属機関での身分 _____

所在地 〒 _____ ・ _____

TEL _____ FAX _____ E-mail _____

自宅住所 〒 _____ ・ _____

TEL _____ FAX _____

海外での受入機関 国名 _____

研究機関名 (学校名) _____

1 学歴・職歴 (学位取得の時期)

2 希望助成金額 と 使途計画

使途計画について記載してください

希望助成金額 _____ 万円 _____

3 滞在の期間・滞在費等の受領と申請の状況・支出の実体と見込み・本助成の必要性

派遣先等での本助成対象となる 2018 年度滞在期間 _____ 年 _____ 月 ~ _____ 年 _____ 月 (_____ ヶ月)

日本で受給している給与やフェローシップ等滞在支援の有無 (申請中又は予定を含む) あり なし

受給中の給与の額 _____ 万円/年 (勤務先名と職名) _____

受給中のフェローシップなどからの支援額 _____ 万円/年 (助成団体や制度の名前) _____

フェローシップなどへの支援申請の額 _____ 万円/年 (助成団体や制度の名前) _____

支出の実体と見込み (年額)

滞在費 総額 _____ 万円 (うち本助成による充当分 _____ 万円)

研究費 総額 _____ 万円 (うち本助成による充当分 _____ 万円)

その他 総額 _____ 万円 (うち本助成による充当分 _____ 万円)

本助成の必要性 (具体的に説明してください)

4 研究の目的・特色・実績

(なるべく具体的かつ簡潔に記入してください。紙面不足の場合は A4 用紙 1 枚以内で別紙を添付してください)

5 受入れ研究機関等での交流研究または共同研究の内容 (具体的に記入してください)

6 今後の研究計画骨子・期待される成果（予想される波及効果等）

7 本研究に関連する申請人本人の主要論文（最近の論文を5件ほど記入してください）

8 研究者としての将来展望（《海外研究特別奨励》を上乗せ申請する場合のみ、ご記入ください。

研究者として、自身の研究をどのように考えているか、また研究テーマにどう取り組んでいるかなど、なるべく具体的かつ簡潔に記入してください。紙面不足の場合は A4 用紙 1 枚以内で別紙を添付してください)